

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

高橋総長就任のあいさつ



愛知県がんセンター総長

高橋 隆

愛知県がんセンターは、1964年に設立され50年余の歴史を持つ、愛知県がん対策推進条例に記された施策遂行の一端を担う機関です。国立がん研究センターやがん研究会がん研究所と並ぶ日本における主要がんセンターの一つであり、愛知県下のがん診療連携拠点病院の中心的な存在でもあります。

現在のがん医療は、がん研究の進展と密接に関連しており、もはや融合しているといっても過言ではありません。今やヒトゲノムの塩基配列はすべて解読されており、ゲノム解析の技術革新と相まって、個々のがんのアキレス腱を同定して射抜こうという、精密医療の実現が期待されています。また、がんと免疫系の相互作用の科学的理解の進歩にも大きなインパクトを与えて、まさにがん医療を変えようとしています。一方で、加速度的増加を示すゲノムデータの膨大さと広大な応用範囲は、従前のアプローチでは到底対応しきれなくなっていますし、またゲノム編集技術の開発は、遺伝子機能の研究アプローチを大きく変えました。

まさに、がん研究と医療のあり方は、変革を迫られています。そのような時代にあって、愛知県がんセンターは、がんに関わる研究と医療の双方の専門家が集結した、総合がんセンターとしての強みを産・学・官間の連携を強化しつつ最大化して、がんの予防・診断・治療の革新を目指しています。そして、基本理念に掲げるように、革新的な最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を、患者さんの立場に立って提供するという、総合がんセンターとして負うべき説明責任を、病院と研究所が一丸となって十二分に果たしてまいります。

最後に皆様のより一層の温かいご理解とご支援をお願い申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

呼吸器外科部長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院 呼吸器外科部長
黒田 浩章

私は、2012年11月1日に前任の現帝京大学医学部呼吸器外科教授とともに東京より愛知県がんセンターに赴任し、今回、2018年8月1日付けで、呼吸器外科部長に就任いたしました。

県内のみならず県外の患者さんからも多くの支持と信頼を集めている歴史ある当院の責任ある立場に立つことは非常な喜びであるとともに、その職責の重さに身の引き締まる思いです。

赴任後に、肺癌に対する胸腔鏡手術を本格的に導入し、胸腔鏡手術が全肺手術件数の約70%を占め、安全な低侵襲治療を確実なものとしてまいりました。また、2018年より肺癌・縦隔腫瘍に対するロボット支援手術の導入や胸腔鏡手術の更なる低侵襲の実現に操作孔を減らした手術も開始いたしました。しかし、低侵襲手術に固執することなく従来の開胸手術を組み合わせ病期に応じた手術治療を提供することが重要であり、それができることが当科の特徴であると考えています。

患者さんの診療に携わる全ての人は職種に関係なく、診療チームの大切な仲間であると認識しています。そのようなチームとしての和を大切に、個々のプロ意識を尊重し、患者さんに安心・安全な医療を提供してまいりたいと思います。皆様どうぞ宜しくお願い致します。

新任医師の紹介



薬物療法部
坂東 英明

この度、愛知県がんセンター中央病院薬物療法部に着任しました坂東英明と申します。前任の国立がん研究センター東病院では、主に消化器がんの化学療法を中心に治療を行ってきました。消化器がんの化学療法は現在劇的な進歩を遂げています。最新の治療はもちろん、患者さんそれぞれに合った最適な治療を提案していきたいと思っております。



消化器外科部
奥野 正隆

10月より赴任致しました奥野正隆と申します。肝胆膵疾患の外科治療を専門としています。この領域の疾患では複雑で長時間の手術を要することが多いですが、安全かつ根治性を追求した手術を目指して精進いたします。よろしくお願ひします。



消化器外科部
細井 敬泰

食道がんの外科治療を専門にしています。安全で質の高い手術治療を目指すとともに、他科とも協力し集学的治療（手術、化学療法、放射線）を行い、個々の患者さんにとって最良の医療を提供できるように努めています。食道がんに関することは何でもご相談ください。



婦人科部
坪内 寛文

平成30年8月1日付けで婦人科部医師を拝命致しました坪内寛文と申します。今までは、シニアレジデントとして当院で勤務しておりました。今後も患者様に最適な治療を提供するために、誠心誠意努力致します。御指導・御支援を宜しくお願い致します。



麻酔科部
中井 愛子

初めまして、2018年7月より麻酔科に勤務しております中井愛子と申します。麻酔科医の役割は、患者さんの痛みを取るだけではありません。手術が安全に行われるようコーディネートする役割を担っています。チーム医療の一員として日々責務を果たしてまいります。よろしくお願ひします。

高校生のための一日看護体験研修

8月1日に愛知県主催の「一日看護体験研修」が実施され、当院は49名の高校生を受け入れました。受付では少し緊張した様子でしたが、白衣を着用すると笑顔になり、病棟では興味深く、また真剣な表情で看護師と一緒に様々な看護を体験しました。

一日のスケジュールは、病院長、看護部長から病院や看護部の紹介がされ、「将来、看護師となり一緒に頑張りましょう」と激励の言葉が伝えられました。そして、いよいよ病棟での看護体験です。患者役と看護師役に分かれて車いすを体験したり、血圧を測りあったり、採血や点滴を見学したりと様々な体験をしてもらいました。研修を担当した看護師は精一杯看護の魅力を伝え、体験終了後には「看護師になりたいと改めて思った」「よい経験ができた」などの感想を聞くことができました。

研修を担当した看護師は精一杯看護の魅力を伝え、体験終了後には「看護師になりたいと改めて思った」「よい経験ができた」などの感想を聞くことができました。

今後の社会情勢を考えると、看護職への期待や役割はこれまで以上に多く、多岐にわたることが予測されています。看護師育成の一助となったことを私たちもうれしく思い、また自分たちが新人だった頃を思いだし、気持ちを新たにすることができました。高校生の皆さん、参加して頂きありがとうございました。

今後の社会情勢を考えると、看護職への期待や役割はこれまで以上に多く、多岐にわたることが予測されています。看護師育成の一助となったことを私たちもうれしく思い、また自分たちが新人だった頃を思いだし、気持ちを新たにすることができました。高校生の皆さん、参加して頂きありがとうございました。

文：小原真紀子 写真：安田啓介



看護体験研修の様子



2018年度「高校生向け基礎実験体験講座」開催

愛知県がんセンター研究所では毎年夏に「高校生向け基礎実験体験講座」を開催しています。これは夏休みの高校生に研究所でがん研究を体験してもらい、がん研究について学んでもらうイベントです。今年は8月9日に体験講座を開催し、多数の応募の中から抽選で選ばれた14名の高校生が参加しました。参加者は自分の口腔粘膜細胞からDNAを抽出し、PCR法でアルコール代謝に関連する遺伝子多型の測定を行いました。その後に行ったアルコールパッチテストの結果と合わせて、自分の遺伝子型と体質の関係について考察しました。

体験講座後の高校生からは、「生物や実験について前より興味を持つことができた」、「DNAからいろいろな情報が調べられることに驚いた」など大変好評で、楽しく学べたことが伺えました。来年度以降もこのように、高校生を対象として科学の面白さやがん研究の重要性を伝えられるイベントを開催していく予定です。



ご参加いただいた高校生の皆さんと



基礎実験体験講座の様子

患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな1頁

とうろく医探訪

Produced by
地域医療連携・相談支援センター
No.9

あんどろ乳腺クリニック 院長：安藤 由明先生



愛知県がんセンター中央病院の先生方、スタッフの方々には、常日頃から、大変お世話になっており、ありがとうございます。あんどろ乳腺クリニックは、私のがんセンターを退職した後、2010年5月に、気軽に受診できる乳腺外科を目指し、乳腺専門クリニックとして、金山総合駅から北へ徒歩5分のところに開院しました。診療内容は、乳腺疾患の診断治療、乳がん検診、検診や人間ドックなどで要精密検査になった方の二次精密検査、乳がん術後のホルモン治療、乳がん患者さんの病診連携をしています。マンモグラフィ装置、超音波装置、マンモトーム生検装置を用いて、検査、診断を行い、乳

がんが見つかった場合は、がんセンターなどの専門病院に紹介し、治療を行なっていただいています。良性と診断した場合は、当院で経過観察をしています。開院して8年が経過し、乳がんの患者さんが、何かあった時に直接専門病院に行くのではなく、当院に来ていただけるようになってきて、「少しは気軽に受診できる乳腺外科になって来たのかなあ」と思えるようになってきました。しかし、まだまだ診療時間に余裕があるので、もっと多くの方に気軽に受診して頂くには、どうすればいいか、現在模索中です。8月からはネットで診察予約ができるようにもしてみました。どうぞ気軽に受診してください。また気軽にご紹介頂ければと思います。

【医療機関情報】

あんどろ乳腺クリニック

診療科目／乳腺外科、外科

電話／052-253-8281

所在地／〒460-0022

愛知県名古屋市中区金山 2-1-22

プロシード金山2 1F

URL／www.ando-nyuusen.com



診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/	/
午後 3:00~6:30	○	○	○	/	○	/	/	/
備考	月・火・水・金の午後2:00~3:00特殊検査セカンドオペニオン							

※受診の際は診療時間等、直接医院・病院へご確認下さい。

Ando breast Clinic

女性を手厚くサポートする乳腺専門のクリニック

編集後記：第9回は中区、金山駅の近く「あんどろ乳腺クリニック」です。ビルのフォルムや待合室のカーブ状のソファが、訪れる患者さんの緊張をほぐし、安藤先生の誠実な人柄が患者さんに安心感を与えます。HPの「よくある質問」コーナーも、先生の返答が丁寧で秀逸です！<Y.SANO>

がん情報・対策研究分野長就任のあいさつ



愛知県がんセンター研究所
がん情報・対策研究分野長

伊藤 秀美



4月にがん情報・対策研究分野長に就任いたしました伊藤秀美です。

私は、1995年に名古屋市立大学医学部を卒業後、1999年より2年間中央病院呼吸器内科レジデントとして研修した後、大学院生として研究所疫学・予防部の研修生として疫学研究を開始し、その後は疫学・予防部の研究員、主任研究員、室長として、がんの疫学研究を行ってきました。その間約3年間は米国ブラウン大学へ留学していましたが、20年近くにわたり愛知県がんセンターで臨床ならびに研究で研鑽してまいりました。

研究所の疫学部門は、旧体制の疫学・予防部から、この4月の研究所組織改編に伴い、がん予防研究分野とがん情報・対策研究分野の2部門に拡大いたしました。がん情報・対策研究分野では、主に、愛知県、日本、世界のがん登録のデータを活用した記述疫学研究に取り組み、がんにかかる方やがんでなくなる方を減らし、がんにかかっても安心して暮らせる社会の実現を目指し、がん医療や対策に役立つ情報を発信していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

分子遺伝学分野長就任のあいさつ



愛知県がんセンター研究所
分子遺伝学分野長

井本 逸勢



本年度4月に、徳島大学医学部人類遺伝学分野から新設の研究所分子遺伝学分野の分野長に着任いたしました井本逸勢です。中央病院のリスク評価センター長との兼任ですが、愛知県がんセンターの臨床と研究の両方に貢献できるよう努力します。

これまで行ってきた、①がんの網羅的な遺伝子の情報(ゲノム)の解析を行うことで新しいがん遺伝子やがん抑制遺伝子を見つけ、その働きを明らかにする研究、②体に負担なく血液などからがんのDNA異常を検出して診療に役立てる研究、③日本人での遺伝性のがんの原因遺伝子の変化がどの程度起こっているかを明らかにして予防や診断に役立てる研究、の3つを柱に、研究所内外の研究者や病院の医師の皆さんと協力して、がんの予防、早期診断、治療に役立つ研究を進めていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

個別化医療トランスレーショナルリサーチ分野長就任のあいさつ



愛知県がんセンター研究所
個別化医療TR分野長

谷田部 恭



これまでは病院で、2005年より遺伝子病理診断部、臨床検査部の部長として、2017年4月からは個別化医療センターのセンター長として勤務してまいりました。加えて、2018年4月より研究所の分野長も兼ねさせていただくことになりました。現在、臨床の現場では遺伝子解析が数多く導入されるとともに、その結果が治療方針を決定する情報ともなる時代です。そのような解析は個別化医療センターで行いますが、それらの解析の中で出てきた疑問や問題に対して、より高度な解析を行わなくてはならない場合や解析方法を工夫する必要などがあります。そのような研究を行う研究所の一部門として、この役職を頂いたと思っています。また、病院と研究所を結ぶハブとしての役割も重要と考えています。

無菌室の改修と新しい細胞療法

中央病院 血液・細胞療法部

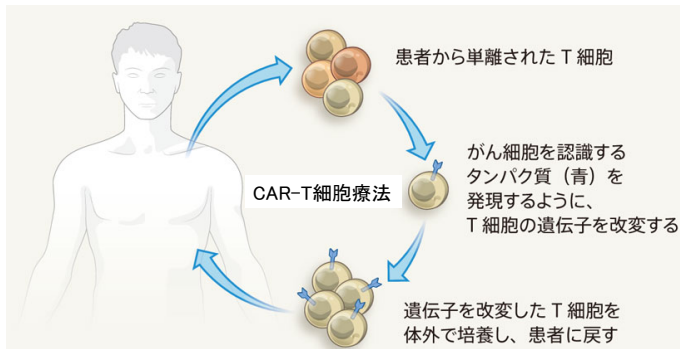
当部名称の「細胞療法」の由来は、抗がん剤などの薬剤ではなく「細胞」を使用した治療をおこなう部門であることを意味しています。細胞療法には骨髄移植などの造血幹細胞移植が含まれますが、造血器腫瘍（白血病、リンパ腫、骨髄腫）の治療では、造血幹細胞移植は重要な治療手段であり、当院でも積極的に実施してきました。造血幹細胞移植をおこなう時には、患者さんは無菌室に入室して頂くこととなりますが、開設以来使用してきた無菌室が老朽化したため、この度、改修をおこない10月から5床の新しい無菌室が稼働しました。

造血幹細胞移植では、細胞は患者さん自身またはドナー（提供者）から採取した細胞を、そのまま患者さんに輸注（移植）します。最近、患者さんから採取したT細胞リンパ球（免疫細胞）に、腫瘍を攻撃する遺伝子を導入し、患者さんに戻すCAR-T（カー・ティー、と呼びます）細胞療法が注目されています（図参照）。CAR-T細胞療法では、がん細胞を認識し、がん細胞を攻撃するように活性化する遺伝子を導入したT細胞（免疫細胞）を輸注します。

CAR-T細胞療法を実施するには、無菌室のみならず、実施するための体制を整える必要があります。当院でも、必要な患者さんにCAR-T細胞療法をおこなえるようにその体制整備に取り組みたいと思っています。

CAR-T細胞によるがん細胞への攻撃命令

患者さん自身から取り出したT細胞（免疫細胞）に、腫瘍を攻撃する遺伝子を導入し、患者さんに戻すことにより、がん細胞を抑えます



Heidi Ledford: Nature ダイジェスト Vol. 12 No. 3 より改変
(<https://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/v12/n3/自己T細胞移入療法でがん患者の生存期間が延長/60984>)



山本一仁部長（前列左）とスタッフ一同

～ 中央病院 脳神経外科部

スタッフの紹介～

脳神経外科部は、脳や脊髄の外傷や腫瘍、脳卒中など、中枢神経系の病気を主に外科的に治療する科です。がん専門病院である当院では、がんが脳や脊椎へ転移した場合（転移性脳腫瘍・転移性脊椎腫瘍）の治療を担うことが多いです。中でも、最近の手術法の進歩がめざましい脊椎・脊髄外科領域では、従来積極的な治療適応とされなかった転移性脊椎腫瘍の患者さんに対しても手術治療を導入して、疼痛の緩和や日常生活動作の保持に積極的に取り組んでいます。



写真：左から、灰本章一（医長）、服部和良（部長）

頭頸部がんの新たな治療

～免疫チェックポイント阻害薬～

中央病院 頭頸部外科部

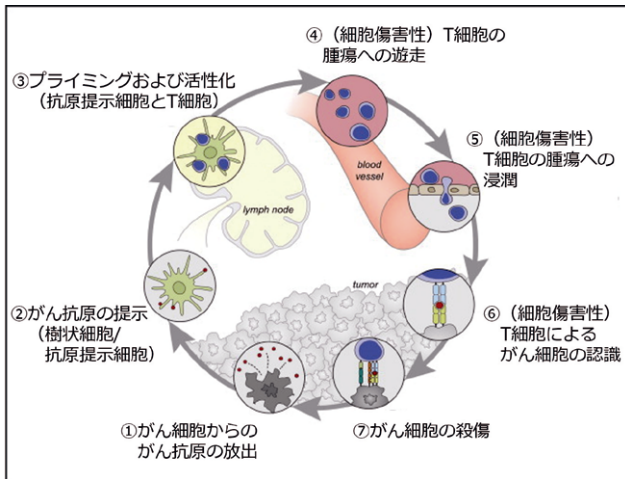


頭頸部外科部長
花井 信広

昨年3月、免疫チェックポイント阻害薬である「ニボルマブ」が頭頸部がんに関与する保険適応となりました。これは従来の抗がん剤とは異なる仕組み、つまり患者さん自身に本来備わっている免疫システムに作用してがんを闘う薬剤です。がん細胞は免疫反応が過剰に働かないようにする身体のチェック機構（免疫チェックポイント）を利用して免疫反応から逃れ、腫瘍を増殖・進行させていますが、このチェック機構を阻害することでがん細胞を傷害するT細胞を活性化し、がんを攻撃します。

頭頸部がんの治療は原則として手術または化学放射線治療で根治を目指しますが、これらの対象とならない再発転移の病気に対して免疫チェックポイント阻害薬が用いられます。すべての方に効果が認められるわけではありませんが、従来の抗がん剤では見られなかったような良好な効果を示す場合があります。免疫に関連する特有の副作用にも注意は必要ですが、従来の抗がん剤とは副作用も異なるため、生活の質を維持しながら治療できることも知られています。

免疫チェックポイント阻害薬が実際の臨床に用いられるようになったことで、今後、更に新たな治療戦略が開発されると予想されます。頭頸部がんの治療も大きな変革期を迎えています。頭頸部外科ではこれまで以上に放射線治療部、薬物療法部との連携を密にして、患者さんに最適な治療を届けられるように努力しています。



癌に対する免疫サイクル：7つの主要なステップ
Chen DS, Mellman I. Immunity 39(1): 1-10. 2013より改編



多職種による週1回の頭頸部カンファレンス風景

～ 中央病院 臨床検査部 スタッフの紹介 ～

臨床検査部は、血液、尿などを調べる検体検査や心電図・超音波等を検査する生化学検査科と、病原菌を調べる細菌検査、診断用の標本作製や細胞を観察する病理細胞診検査、抗がん剤の有効性を予測する遺伝子検査などを行う遺伝子病理検査科の2部門からなります。いずれも迅速・正確でかつ専門性を高めた結果を提供するために、認定技師の資格取得や精度保証にも力を入れ、高度化するがん医療に役立つ検査部を目指しております。



生化学検査科スタッフ



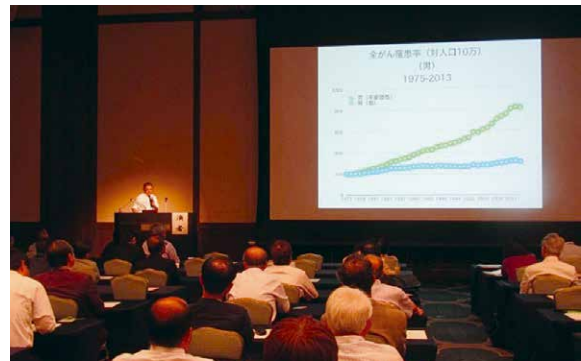
谷田部部長（前列中央）と遺伝子病理検査科スタッフ

第9回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました

7月21日（土）、メルパルク名古屋において、近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、第9回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました。168人もの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。

当院診療部門からの話題提供に加え、がん予防についての特別講演があり、活発な意見交換も行われ、大変有意義な会となりました。

次回の第10回は、3月9日（土）17時からメルパルク名古屋にて開催予定です。



医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科 (サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのご案内

- ◎一般道路
本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- ◎高速道路
東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索